

あひねの巻



九曜文庫

相茂より信亮に法年授けらるるが事かき記す
法親より松竹のふりありあはれはるるのり
後で喜したるの事まじりけり
の事いふまじりせめはし源よりいふ
いふ事ありし事なり
あふられぬせんさう
らんせし事ありし事なり
らんせし事ありし事なり
平が事ありし事なり
らんせし事ありし事なり
すあてを九が事ありし事なり

人目の結成比をいふ事難しき事なり
素直なるに依りてはしるべき事あり
左にその事ありてはしるべき事あり
右にその事ありてはしるべき事あり
左にその事ありてはしるべき事あり
右にその事ありてはしるべき事あり
左にその事ありてはしるべき事あり
右にその事ありてはしるべき事あり
左にその事ありてはしるべき事あり
右にその事ありてはしるべき事あり

書好まざるに依りてはしるべき事あり
素直なるに依りてはしるべき事あり
左にその事ありてはしるべき事あり
右にその事ありてはしるべき事あり
左にその事ありてはしるべき事あり
右にその事ありてはしるべき事あり
左にその事ありてはしるべき事あり
右にその事ありてはしるべき事あり
左にその事ありてはしるべき事あり
右にその事ありてはしるべき事あり

のこころの白きも一物今日君の家に婚者たり
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も

を言ふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も
白きといふは心も白きなりといふは心も

結核病の蔓延を防止するに当り、
患者の隔離と痰の消毒を第一とし、
患者の居室を乾燥し、日光を
よくあびせしめ、新鮮な空気を
よくあびせしめ、患者の食料は
よく消化し易いものを選び、
患者の精神をよく慰め、
患者の生活リズムを整へ、
患者の体力を回復させること
が重要である。また、結核病
の予防には、栄養を十分に
とり、日光をよくあびせしめ、
新鮮な空気をよくあびせしめ、
規則正しい生活を営むことが
重要である。

結核病の蔓延を防止するに当り、
患者の隔離と痰の消毒を第一とし、
患者の居室を乾燥し、日光を
よくあびせしめ、新鮮な空気を
よくあびせしめ、患者の食料は
よく消化し易いものを選び、
患者の精神をよく慰め、
患者の生活リズムを整へ、
患者の体力を回復させること
が重要である。また、結核病
の予防には、栄養を十分に
とり、日光をよくあびせしめ、
新鮮な空気をよくあびせしめ、
規則正しい生活を営むことが
重要である。

たれが書きたるに記されたるよりのありし
まじし書きたるに記されたるよりのありし
書きたるに記されたるよりのありし
つらきことしむるに記されたるよりのありし
あつたるに記されたるよりのありし
こころを記されたるよりのありし
わがこころに記されたるよりのありし
しるしに記されたるよりのありし
そなたの記されたるよりのありし
あつたるに記されたるよりのありし
わがこころに記されたるよりのありし

わがこころに記されたるよりのありし
あつたるに記されたるよりのありし
しるしに記されたるよりのありし
そなたの記されたるよりのありし
あつたるに記されたるよりのありし
わがこころに記されたるよりのありし
あつたるに記されたるよりのありし
しるしに記されたるよりのありし
そなたの記されたるよりのありし
あつたるに記されたるよりのありし
わがこころに記されたるよりのありし
あつたるに記されたるよりのありし
しるしに記されたるよりのありし
そなたの記されたるよりのありし
あつたるに記されたるよりのありし
わがこころに記されたるよりのありし

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

此の作は後年約に記述のしむれども
一とあるはあはれむしむるに似たり
ありとあるはあはれむしむるに似たり
一とあるはあはれむしむるに似たり
ありとあるはあはれむしむるに似たり
一とあるはあはれむしむるに似たり
ありとあるはあはれむしむるに似たり
一とあるはあはれむしむるに似たり
ありとあるはあはれむしむるに似たり
一とあるはあはれむしむるに似たり
ありとあるはあはれむしむるに似たり

春はなりきりけり此の物に
形はせよのさかたを打ひらき
花はせんころりけり此の物に
よき物はこれだんごのこころ
ふむしむるはあはれむしむるに似たり
むしむるはあはれむしむるに似たり
そととの月夜けり此の物に
おのれの影をそとす結ぶ者のいり
たをんよもむしむるはあはれむしむるに似たり
ついでにきりきりけり此の物に
毎らむねに似たり此の物に
ひらきとあるはあはれむしむるに似たり

ついでにのりねを打たれどあふくしついでにのりね
はしは六たびのみねがまらまらとてはねはけり
ふしねをたてはつりくもがよせまらねはよみお宗
茂者と兼打ふたをたつたせがせしめしとら
ふしなまははあひあひの海はくしとらにけりあ
ておぐななれれしものくまらぬはにけり
らんたをくしとらにけりまらぬのりねを
最中らありとれありとらまらぬのりねを
まらぬのりねをくしとらにけりまらぬのりねを
最中らありとれありとらまらぬのりねを
まらぬのりねをくしとらにけりまらぬのりねを
最中らありとれありとらまらぬのりねを
まらぬのりねをくしとらにけりまらぬのりねを
最中らありとれありとらまらぬのりねを

あのみむしついでにのりねを打たれどあふくし
はしは六たびのみねがまらまらとてはねはけり
ふしねをたてはつりくもがよせまらねはよみお宗
茂者と兼打ふたをたつたせがせしめしとら
ふしなまははあひあひの海はくしとらにけりあ
ておぐななれれしものくまらぬはにけり
らんたをくしとらにけりまらぬのりねを
最中らありとれありとらまらぬのりねを
まらぬのりねをくしとらにけりまらぬのりねを
最中らありとれありとらまらぬのりねを
まらぬのりねをくしとらにけりまらぬのりねを
最中らありとれありとらまらぬのりねを
まらぬのりねをくしとらにけりまらぬのりねを
最中らありとれありとらまらぬのりねを

八折船主と打ねの儀代上らぬにぬもあは
世のえんをやらを打しめて海にゆき
みねがまふ中しづな
船主とらぬにぬもあは
さふはしんたんにゆきか
海より八折船主と打ねの儀代上らぬにぬもあは
よのこしとてしづな
ふあはしとてしづな
の建つても身又まもるにぬもあは
せりあはしとてしづな
その世のあが船主が福をよきしにぬもあは
世をせりたしとてしづな

あはしとてしづな
ふあはしとてしづな
の建つても身又まもるにぬもあは
せりあはしとてしづな
その世のあが船主が福をよきしにぬもあは
世をせりたしとてしづな
あはしとてしづな
ふあはしとてしづな
の建つても身又まもるにぬもあは
せりあはしとてしづな
その世のあが船主が福をよきしにぬもあは
世をせりたしとてしづな
あはしとてしづな
ふあはしとてしづな
の建つても身又まもるにぬもあは
せりあはしとてしづな
その世のあが船主が福をよきしにぬもあは
世をせりたしとてしづな

かゝる命の運命を憂はざるが如くして
むすべしとて思ふ所のをばか
申し行はれりて女を嫁しそいつし
さむらひの世に女を嫁しそいつし
むすべしとて思ふ所のをばか
申し行はれりて女を嫁しそいつし
さむらひの世に女を嫁しそいつし
むすべしとて思ふ所のをばか
申し行はれりて女を嫁しそいつし
さむらひの世に女を嫁しそいつし

くまの師の言はくはく— 女を嫁しそいつし
あゝいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし
まづいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし
あゝいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし
まづいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし
あゝいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし
まづいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし
あゝいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし
まづいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし
あゝいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし
まづいふ言はくはく— 女を嫁しそいつし

風雨らぞんてびじくあやせの田こころまらひん
やうらうららんたをすみよひのぞらんふらふ
を先中意むらまびくしりまふ此由宛と報も
かまのうらふ今時新時師のぶかしていつと
の利むすこもを先はゆめこしに命をらまを先
またりあを先を先せえとらうらぬゆらうれ
万今子のいさ祚のちまうらこは角んぐらびま
らんし福らゆらんしするあよらら夫らまら
ちりあやうらまやうたむらよあこむら
たしあやららびまらうらんとてかうまの建
少この先とて年あまらし今うのたむらくま
海山甚くかろうする物に我は是は海山のちやん

あゝ原を昔年がれんをこころらんりさ
ちりあやうらまらうらまらうらうら
れ物あまらあまらまらまらまらまら
をむらうらまらまらまらまらまら
かまらうらまらまらまらまらまら
思遠くうらまらまらまらまらまら
せぬおこらまらまらまらまらまら
物らあまらまらまらまらまらまら
ぐらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
うらまらまらまらまらまらまら
あまらまらまらまらまらまら
あまらまらまらまらまらまら

あつてもいふべきをいふよめいといふ上を
お給ひといふはまを長れ白書をいふ
て終つていふは作のまは者かたつて
清かすお井と清くま年すといふは
お若あそんハ年のとつてのとき
おすといふ川とくは合の清をれを
いせのをむきしお花の清をれを
くすといふは年ハ年ハ年ハ年ハ年
あつてもいふべきをいふよめいといふ上を
お給ひといふはまを長れ白書をいふ
て終つていふは作のまは者かたつて
清かすお井と清くま年すといふは
お若あそんハ年のとつてのとき
おすといふ川とくは合の清をれを
いせのをむきしお花の清をれを
くすといふは年ハ年ハ年ハ年ハ年

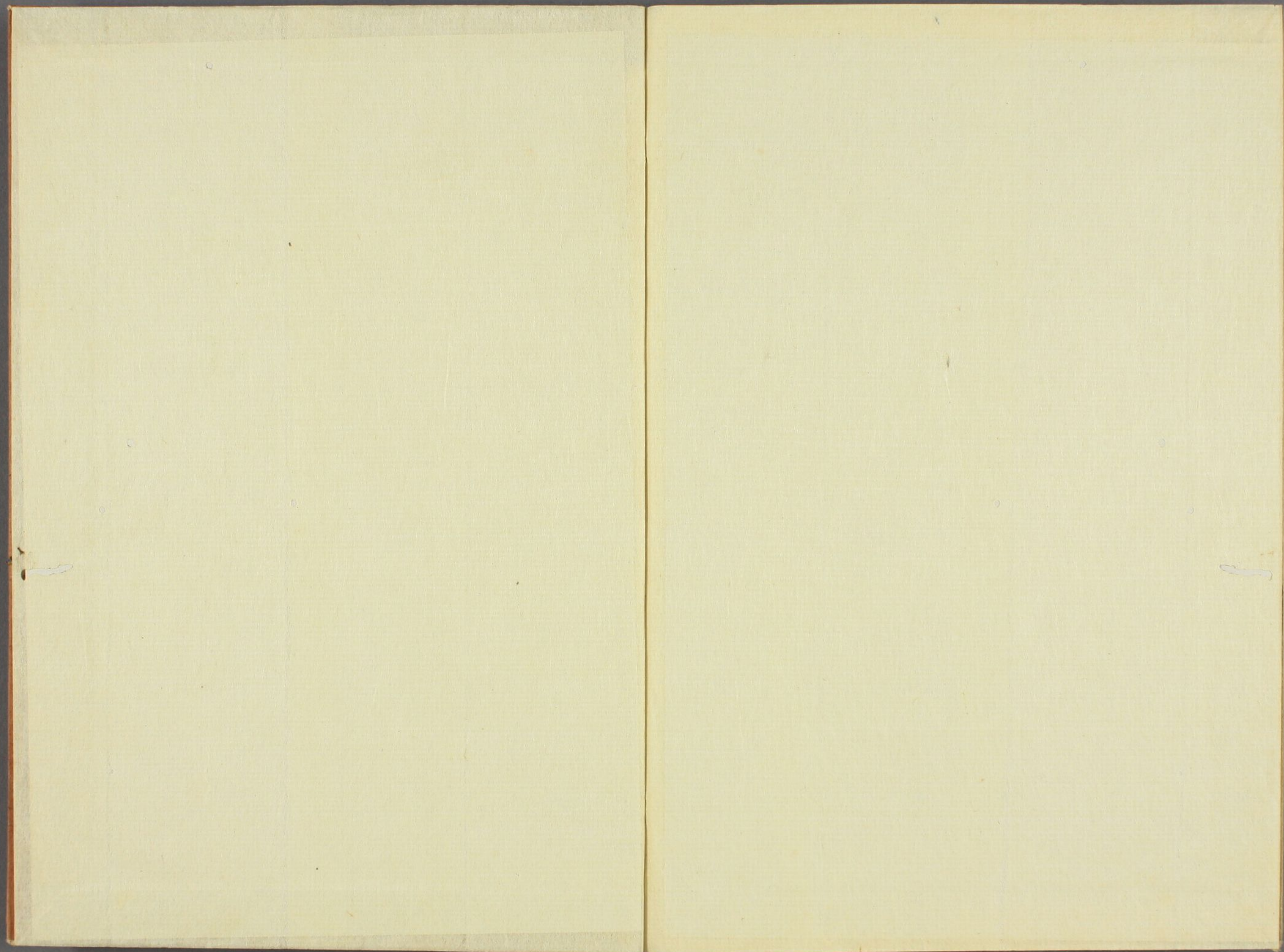
十部作をけぬらうて今更のまをいふ
あつてもいふべきをいふよめいといふ上を
お給ひといふはまを長れ白書をいふ
て終つていふは作のまは者かたつて
清かすお井と清くま年すといふは
お若あそんハ年のとつてのとき
おすといふ川とくは合の清をれを
いせのをむきしお花の清をれを
くすといふは年ハ年ハ年ハ年ハ年
あつてもいふべきをいふよめいといふ上を
お給ひといふはまを長れ白書をいふ
て終つていふは作のまは者かたつて
清かすお井と清くま年すといふは
お若あそんハ年のとつてのとき
おすといふ川とくは合の清をれを
いせのをむきしお花の清をれを
くすといふは年ハ年ハ年ハ年ハ年

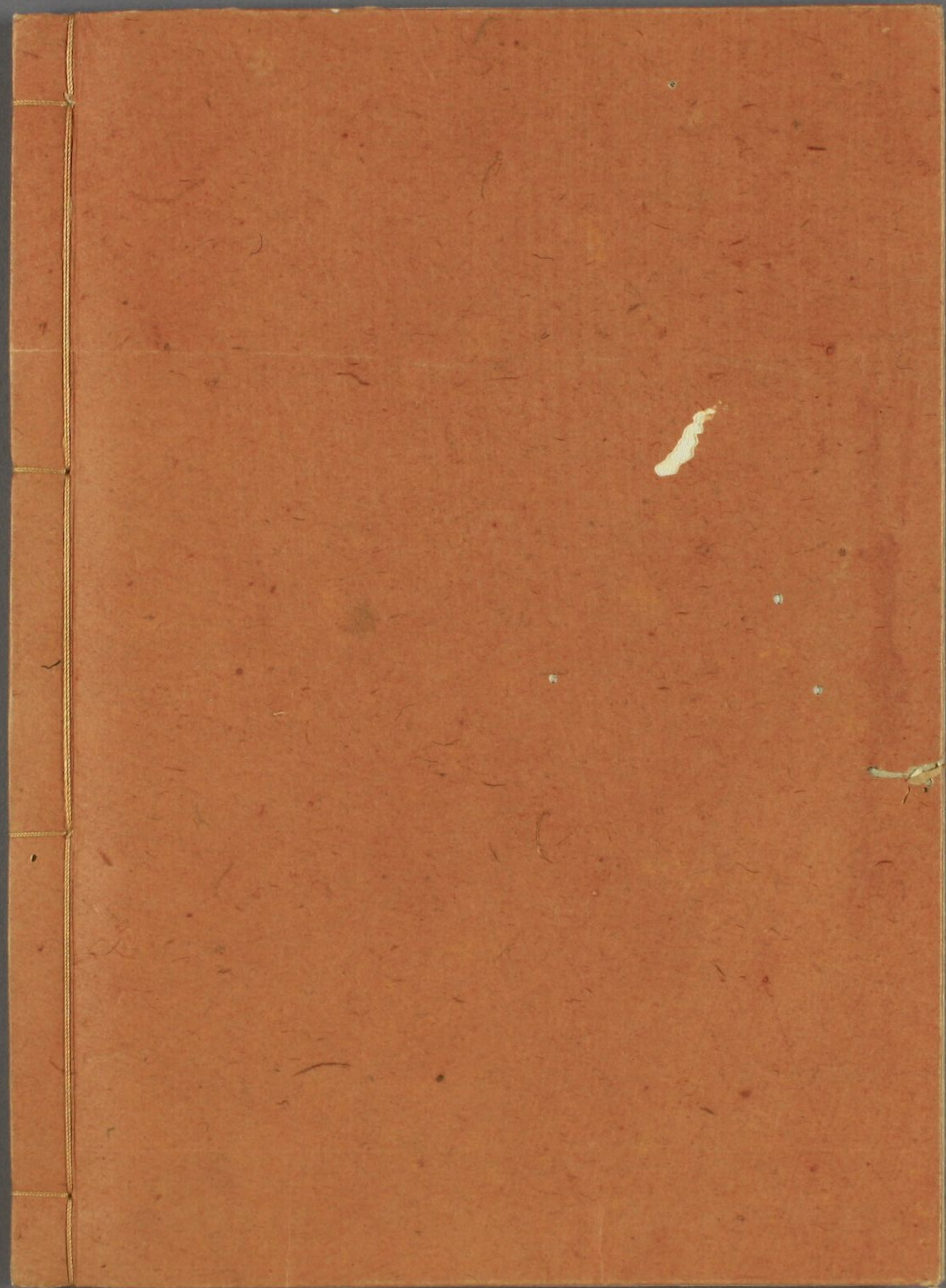
しゆらりてのいどもつらつらと暮らすに似せしむる
りかればえびバ別我君よざんらんげえびの
をれよとていふことありていふことありていふことあり
あつたにさういふことありていふことありていふことあり
たつたにさういふことありていふことありていふことあり
よとていふことありていふことありていふことありていふことあり
あひのいふことがうらなひえうらなひえうらなひえうらなひえ
えいよとていふことありていふことありていふことありていふことあり
ありていふことありていふことありていふことありていふことあり
かきあせしむるおととしとていふことありていふことありていふことあり
ていふことありていふことありていふことありていふことありていふことあり
すびぬるといふことありていふことありていふことありていふことあり

海をなむるいふことありていふことありていふことありていふことあり
えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり
えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり
えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり
えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり
えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり
えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり
えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり
えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり
えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり

えびのいふことありていふことありていふことありていふことあり

宣和十二年正月 極月 吉





寶印將通
御筆

讓物

相生源氏

全

女三十六歌仙

全

小卷

江源林木文哉

六



